

## 平成26年度 管理職「人権教育」研修講座 報告書

- 1 日時及び会場 平成26年5月19日(月)13:00～16:00 於教育研究所
- 2 参加者 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の管理職  
小138名、中69名、高32名、特10名、合計249名
- 3 内 容 13:00～13:30 開会行事  
13:30～14:50 全体研修(講演)[大講座室]  
15:00～16:00 グループワーク [中講座室1～6]



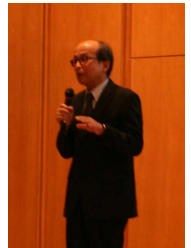
### <全体研修>

講演 「人権尊重の視点に立った学校づくり」～管理職として留意すること～

講師 大橋 眞(元三重県立四日市高等学校長)

(講演の要旨)

- ・ 個別の人権課題について考えること、思いやりや優しさについて教えること、権利について考えること等、人権教育は様々な内容を含んでいる。校長として赴任して、まず、全ての教員に人権尊重の視点を周知することから始めた。学校組織として、人権教育を推進することが必要である。
- ・ 子どもは、教職員がどのような人権感覚を持っているかを常に感じ取っている。子どもは、先生の後ろ姿を見て育っていく。自分が他者から大切に思われているという実感をもっていない子どもは、他者を大切には思えない。文部科学省「人権教育の指導方法等の在り方について[第3次とりまとめ]」で紹介されている「隠れたカリキュラム」のように、学校がどのような雰囲気を持っているかが重要である。
- ・ 同和教育は、部落の子どもを取り巻く実態を教育課題としてとらえることから始まった。今、ひとり親家庭の貧困問題、部落問題等を前にして、学校では、課題を明確にし、その解決に向けて、子ども・保護者・地域と共に考えること、また、子どもたちの自主的な学びを作り出すことが重要である。
- ・ 県立四日市高等学校では、テーマを決め、全ての学年・学級で半年をかけて人権教育の実践を積み重ねてきた。年度末には、焦点を絞り、数時間かけて全校討論会を行った。一人一人が問題意識を持ち、自分たちで全体討論会を作り上げたという実感を持つことができた。子どもたちの人権感覚を培うことができた。



### 参加者の感想より

- ・ 子どもを理解しなければ教育はできない。そのためには、教師自身が広い視野を持ち、社会の現実をしっかりとつかんでおくことが大切だということに改めて感じた。
- ・ 「人権教育を徹底することが学校づくりの礎になる」という言葉が印象的であった。やさしさ、思いやりのあふれた学校を創っていきたくて改めて感じた。
- ・ 子どもたちが自己実現を図るための力を付けられるように教職員が力を合わせて取り組みたい。

### <グループワーク>

テーマ 「人権尊重の視点に立った学校マネジメント」

内容 1 1枚の写真を見て意見を交換する。

- (1) この学級を見て、どのようなことが気になりましたか。
- (2) 気になったことに対して、どのような対応をしますか。
- (3) 考えた対応について、人権の視点でふり返ってみましょう。

2 人権が尊重された学校を目指し管理職として取り組んでいることについて意見交換する。



### ～グループワークから見えてきたことのまとめ～

【大切にしたいこと】

- ・ 教職員が子ども一人一人の生活背景まで把握し共通理解すること、教職員がチーム(複数)で対応すること、教室の主役が誰であるかを考えること等が意見として出された。小さな取組(挨拶、声かけ等)の積み重ねが大切である。

【具体的な取組】

- ・ 保護者に限り毎日オープンスクールを実施している。
- ・ 二者懇談を年2回実施し、後の1回は子どもが話を聞いてほしい先生を選べるようにしている。
- ・ スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの活用。学校ボランティア制度の活用。
- ・ 朝食をとれない(とらない)家庭が多いので、校時を工夫して給食を早めている。